(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和6年 6月 13日

千葉県知事

熊谷 俊人 殿

提出者 〒104-8289

住 所 東京都中央区新川1-24-4

氏 名 大豊建設株式会社 東京建築支店 執 行 役 員 支 店 長 塩 田 雅 紀

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-5541-5017

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その 処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大豊建設株式会社 東京建築支店
事業場の所在地	東京都中央区新川1-24-4(千葉県内所管分 4か所)
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで
当該事業場において現に行っ	ている事業に関する事項
①事業の種類	D06-総合工事業
②事業の規模	37,234(百万円)
③ 従 業 員 数	174人
④ 産 業 廃 乗 物 の 一連の処理の工程	

(日本工業規格 A列4番)

産業	美廃棄物の処理に係る	管理体制に関する事項								
	(管理体制図)									
	(別添一1 管理体制	割図による)								
産業	達廃棄物の排出の抑制]に関する事項								
		【前年度(令和5年度)実績								
		産業廃棄物の種類_	がれき類		廃プラスチック					
		排出量	1017. 1	t	108	t				
	①現状	(これまでに実施した取組))	•						
		 廃材を減らしリサイクル率を増やす								
			,							
		【目標】								
		産業廃棄物の種類_	がれき類		廃プラスチック					
		排出量	227. 4	t	108	t				
	②計画	(今後実施する予定の取組))							
		 再生利用業者の継続利用								
産業	É廃棄物の分別に関す 「		の径をサマックロウェ用	з Б и п	- . √n \					
	①現状	(分別している産業廃棄物	の種類及の分別に関	する月	X社)					
		現場での回収ボックスによ	る分別							
		(今後分別する予定の産業廃		別に関	 する取組)					
	②計画	同 上								
		IPI 그								

自	っ行う産業廃棄物の再	手生利用に関する事項		
		【前年度(令和5年度)実績】		
		産業廃棄物の種類_	がれき類	廃プラスチック
		自ら再生利用を行った 産 業 廃 乗 物 の 量	t	t
	①現状	(これまでに実施した取組)		
			_	
		【目標】		
		産業廃棄物の種類」	がれき類	 廃プラスチック
		自ら再生利用を行う	t	t
	②計画	産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組)		
			-	
自	う行う産業廃棄物の中	間処理に関する事項		
		【前年度(令和5年度)実績】		
		産業廃棄物の種類_	がれき類	廃プラスチック
		自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	①現状	自ら中間処理により減量した 産 業 廃 棄 物 の 量	t	t
		(これまでに実施した取組)	·	
			_	
		【目標】	_	
		産業廃棄物の種類_	がれき類	廃プラスチック
		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	②計画	自ら中間処理により減量する 産 業 廃 棄 物 の 量	t	t
		(今後実施する予定の取組)	<u>,</u>	
			_	

○埋立処分又は海洋投入処分に関【前年度(令和5年度)実績】	/ J サ K		
- 1 【則年及(令利5年及) 素額】			
産業廃棄物の種類_	がれき類	廃プラスチック	
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t		t
(これまでに実施した取組)			
	_		
1 □+#1			
産業廃棄物の種類	 がれき類	廃プラスチック	
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t		t
(今後実施する予定の取組)			
	-		
産業廃棄物の種類」	がれき類	廃プラスチック	
全処理委託量_	1017. 1 t	108	t
優良認定処理業者への 処理 委託 量	601.6 t	53. 2	t
再生利用業者への処理 委託 量	1017. 1 t	77. 1	t
認定熱回収業者への処理 委託 量	t		t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	t		t
(これまでに実施した取組)			
再生利用業者の継続利用			
1.1 〒1.1/11 平月 人 小板 小小人 1.1/11			
	自海産 (ここれを) (はた量) (な) (自 ら 埋 立 処 分 マ は 海洋投入廃棄 整 物 の 種 類	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) 【目標】 産業廃棄物の種類 がれき類 廃プラスチック 自ら埋立処分を行う産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組) 【前年度(令和5年度)実績】 産業廃棄物の種類 がれき類 廃プラスチック 全処理委託 量 1017.1 t 108 【優良認定処理業者への処理委託 量 601.6 t 53.2 再生利用業者への処理要素に量 1017.1 t 77.1 認定熱回収業者への処理理委託 量 1017.1 t 77.1 認定熱回収を行う業者への処理要素に 量 た 量 1017.1 t で7.1

(第5面)

	(为 J	山 /			
	【目標】				
	産業廃棄物の種類_	がれき類	廃プラスチック		
	全処理委託量_	227. 4 t	108 t		
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	227. 4 t	108 t		
	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t		
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t		
②計画	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理 委託 量	t	t		
	(今後実施する予定の取組)			
	再生利用業者の継続利用				
※事務処理欄					

産業廃棄物	物の排出の抑制に関する	事項									
	【前年度(令和5年度	g) 実績】									
①現状	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ(石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
	排出量	72.6 t	126.8 t	13 t	0.1 t	73.3 t	3.0 t	0 t	105 t	7.0 t	2.8 t
	【目標】										
②計画	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ(石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
	排出量	120.8 t	43.5 t	16.7 t	1.0 t	0 t	0 t	0.3 t	78.9 t	160.0 t	0 t
自ら行う層	産業廃棄物の再生利用に										
	【前年度(令和5年度	要) 実績】									
①現状	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ(石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
	【目標】						•	•	•	•	
②計画	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ (石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
自ら行う層	産業廃棄物の中間処理に						•	•	•	•	
	【前年度(令和5年度	E) 実績】									
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ(石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
①現状	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
【目標】											
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ (石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
②計画	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の種類	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t

ら行う産業	業廃棄物の埋立処分又	は海洋投入処分に	- 関する事項								
	【前年度(令和5年度	:)実績】									
O = 11.11	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ(石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
①現状	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
	【目標】										
@=1 ==:	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ(石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
2計画	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
業廃棄物(の処理の委託に関する 【前年度(令和5年度										
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	 蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ(石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
	全処理委託量	72. 6 t	126. 8 t	13 t	0.1 t	73. 3 t	3 t	0 t	105 t	7 t	2.8 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	69.2 t	36.9 t	1.1 t	0.1 t	73.3 t	3 t	0 t	88.5 t	1 t	0 t
①現状	再生利用業者への処理委託量	69.6 t	126.8 t	12.7 t	0.1 t	0 t	0 t	0 t	84.1 t	7 t	2.8 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
	【目標】										
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず	金属くず	蛍光灯	がれき類 (石綿含有)	がらす陶磁器等くず (石綿含有)	廃プラ(石綿含有)	建設混合廃棄物	がらす陶磁器等くず	建設汚泥
	全処理委託量	120.8 t	43.5 t	16.7 t	1.0 t	0.3 t	0 t	0.3 t	78.9 t	160.0 t	0 t
○ ≱.æ:	優良認定処理業者への 処理委託量	120.8 t	43.5 t	16.7 t	1 t	0.3 t	0 t	0.3 t	78.9 t	140.0 t	0 t
②計画	再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別添1 管理体制図

